

国宝 琉球国王尚家関係資料「玉冠(たまのおかんむり)」

「玉冠」(国宝)は、琉球国王の即位儀礼である冊封や国内儀礼の際に着用された冠です。1996年(平成8)に、尚家第22代当主尚裕様から、那覇市に他の資料とともにご寄贈いただきました。

那覇市歴史博物館では、2006年(平成18)から、年に2回の玉冠の特別展示(通算30日)を行っています。玉冠が見られなくて残念という声が多いことから、玉冠の複製品の製作を行いました。



「玉冠」(国宝)正面

規模形態

- ・全高18.4cm
- ・長径21.8cm、短径14.6cm
- ・簪全長31.6cm、花部径3.7cm
- ・総重量605g

素材構成

- ・縮緬(ちりめん)・・・(黒色)
- ・金筋(きんすじ)・・・(金糸)
- ・飾玉(かざりだま)・・・(7種類)
- ・組紐(くみひも)・房(ふさ)・・・(朱色)
- ・花型金具(はながたかなぐ)
- ・紐通金具(ひもとおしかなぐ)
- ・金簪(きんかんざし)
- ・籐(とう)・・・(六つ目編)
- ・和紙製骨組み



右側側面



内側



金簪



飾玉



花形の金具

複製品

「玉冠」(国宝)は展示公開の日数が年間30日と制限されています。多くの方々が玉冠と接することができる機会を増やすため、展示鑑賞用と教育普及用の2つの複製品を製作しました。



<展示観賞用の玉冠>

展示観賞用の玉冠は、より多くの方々に見ていただけるよう、展示公開の機会を増やすために製作したものです。「玉冠」(国宝)の寸法、材料、造りを重視して製作しています。

<教育普及用の玉冠>

教育普及用の玉冠は、実際に触る・持つ・被るといったことが体感できるように製作したものです。そのため、一部の材料を耐久性の優れた物に変更しています。



金具類 (花形金具や紐通し金具など)



「玉冠」(国宝)と複製品

<金簪>

「玉冠」(国宝)の金簪の花部(かぶ)と柄先(えさき)は、金を主とする銀と銅の合金で、花部には阿吽(あうん)の双龍(そうりゅう)と火炎宝珠(かえんほうじゅ)の文様が彫金され、軸棒は金泥(きんでい)が塗られた木目の細かい杉材となっています。複製品の花部と柄先の材料は、実物に色味が近づくよう調合の配分を工夫し、また軸棒の素材には屋久杉(やくすぎ)を用いました。



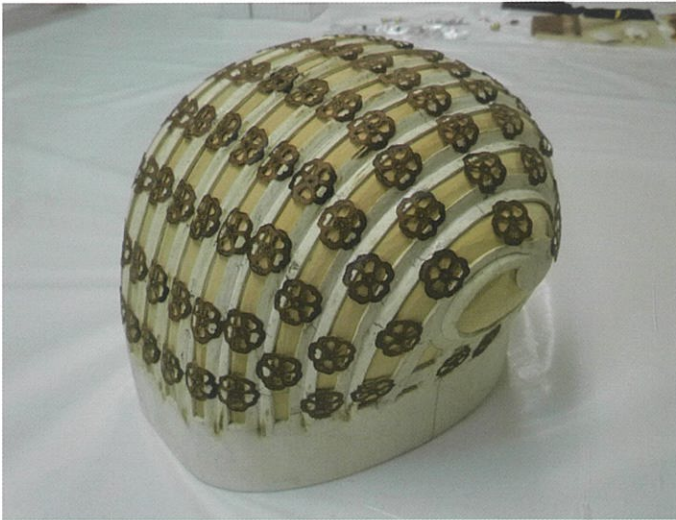
金簪 全体 (左から花部、軸棒、柄先)



金簪の花部の彫金

複製品の製作過程

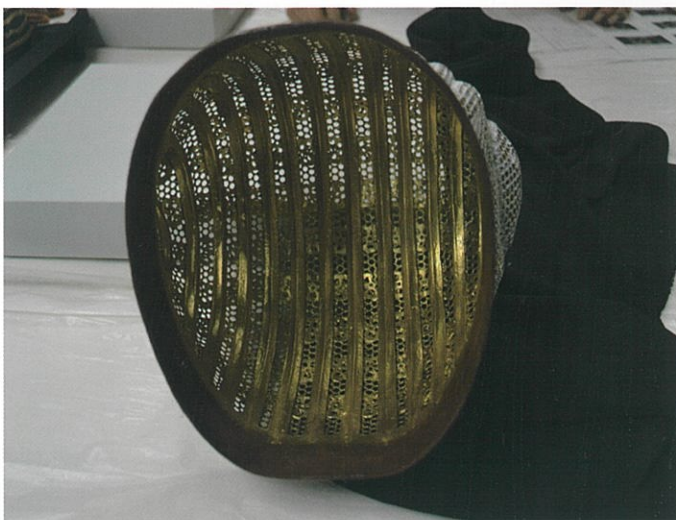
「玉冠」(国宝) に用いられている工芸技術は多岐に渡るため、製作監修委員会の指導・助言のもと、伝統工芸の本場である京都にて、複製品の製作を行いました。



①木型の上に和紙を貼って、骨組みを作ります。



②籐の六つ目編みによって、骨組み全体を覆います。



③木型を外し、内側に金泥を塗ります。



④外側に黒色の縮緬を張り合わせます。



⑤金筋を縫い付け、7種類の飾玉を取り付けます。



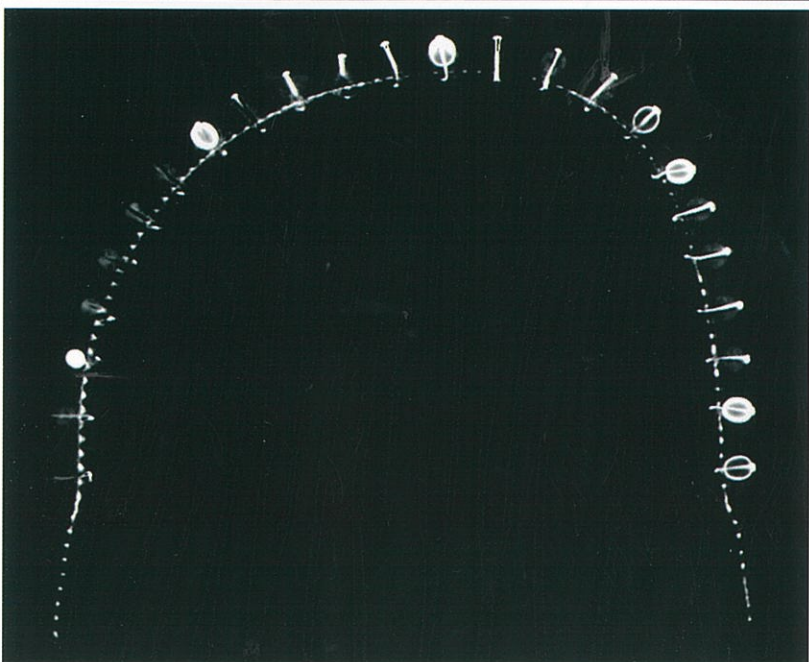
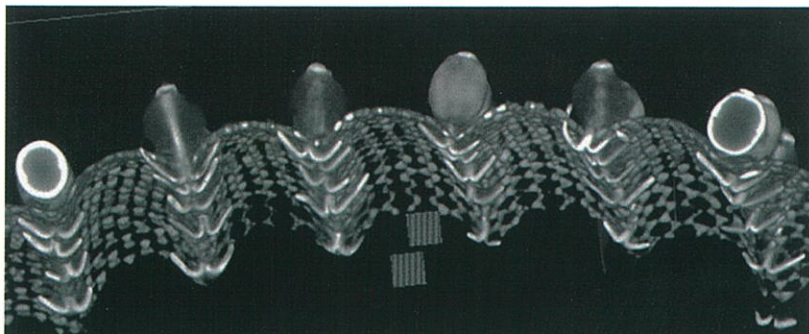
⑥飾り金具や組紐を取り付け、金簪を通して完成。

「玉冠」(国宝)の科学調査および複製品製作委員会

「玉冠」(国宝)の寸法、材料、造りを確認するため、九州国立博物館の協力を得て、科学調査を行いました。また、玉冠の複製品製作に向けて、各分野の専門家等で構成される複製品製作委員会を設置しました。

<CTスキャン計測分析>

玉冠の各部の寸法や断面構造を確認するための調査。



<蛍光X線計測分析>

玉冠の各部の素材を確認するための調査。



科学調査を踏まえた飾玉の素材の推定	
金色玉	金を主とし銀や銅を含む
銀色玉	銀を主とし金や銅を含む
桃色玉	珊瑚(さんご)
赤色玉	琥珀(コーパル)と推定
緑色玉	軟玉(ネフライト)と推定
黒色玉	瑪瑙(めのう)と推定
透明玉	水晶(すいしょう)

科学調査によって、飾玉の金色玉や銀色玉および花形金具の中が空洞であること、玉冠を形作っている内側の網が六つ目編みによって作られていることなどがわかった他、主要部の断面寸法が把握できました。

<複製品製作委員会>

複製品製作委員会は、製作にあたっては検討委員会として、製作中は監修委員会として、問題点等の検討を行いました。

①検討委員会

- ・「玉冠」(国宝)の規模形態や素材構成を再確認しました。
- ・複製品を製作するための体制を検討し、承認しました。

②監修委員会

- ・複製品の製作方法や製作過程について検討し、方向付けを行いました。
- ・製作中の部位の承認または修正指示を行いました。

